地区の話題

技

年の瀬の午後・・。富倉の国道沿い、陽あたりの良い二階の作業場で、スゲ細工つくりに励む人がいます。仲條徳一さん(富倉地区中谷84歳)。今年も、地区の公民館に頼まれ、小正月行事の道祖神の頂きに飾る干支のスゲ細工を制作しています。

「こんなもん。しょうしく(恥ずかしく)てな」笑いながらも、仕上げ作業の手元は休みません。新年の干支は「亥」。スゲを編み、四肢を固定し、両腕で抱えるほどの大きさの猪が完成しました。

富倉地区では、円錐型に萱で巻き上げた道祖神の頂きの部分に、その年の干支を飾るのがならわしとなっています。干支のスゲ細工が焼け落ちる方向で、どの地域が豊作か占ったとも言われています。

「道祖神も昔はにぎやかだったもんだ。風呂桶持ち込んだり、中で泊まったりしてな」

終戦後からはじめ、もう60年もこの作業を続けています。かつては、何人もいたスゲ細工の作り手も、今では仲條さん一人となってしまいました。

スゲ細工の干支の制作には3～4日をかけます。見栄えのする干支の姿を思い浮べ、広告紙の裏に、いくつものデザインを描いてみてイメージを決めます。できあがった「猪」は、逞しく躍動感にあふれていました。

高齢化が進む富倉は、魅力的な食文化や民俗文化の宝庫です。そして、受け継がれてきた「技」の伝承は、この地域の大きな課題でもあります。

1月15日の道祖神祭りの夜。仲條さんの作った「猪」は区民の無病息災、豊作を願い炎となります。

(記　富倉公民館主事　石田一彦)

マイオピニオン ★★ 意見・私見

「地球温暖化防止に協力できること」

秋津地区　上岡利至

地球温暖化問題が大きくクローズアップされCO2削減が叫ばれている昨今である。

企業のCO2削減は、省エネ技術により削減をほぼ達成していると言われている。今後のCO2削減は、私たち個人の削減努力にかかっている。

個人がCO2削減をするには、極端な削減努力で無く、生活の中での一工夫を行えばCO2を削減できるような事でなければならないと考える。

私たちの身近で考えられるのは、まず節電である。節電するには、電灯スイッチのこまめな入り切りなどは昔から言われているが、早寝早起きが一番よいと思う。現代人は生活のリズムが夜型になっていて、これを改めることでチョットしたCO2削減につながり健康にもよい。まさに一石二鳥である。

また、週に一日だけテレビを見ない日を設け、家族の語らい日などにすることで家族との対話も増え、しかもCO2削減になる。

CO2削減は、削減の方法を考えずに健康や家族の事などを考えることで、必然とCO2削減に貢献できることが、私たち個人にとって一番良い地球温暖化防止策だと思う。

「身近な所から地球温暖化防止について考えてみてください!!」

マイオピニオン ★★ 意見・私見

富倉地区公民館冬の行事

富倉公民館　広報部　大塚幸広

富倉地区で冬に行われる公民館行事として1月15日道祖神祭、2月頃に富倉版集落サロン、3月には区民雪上運動会が行われています。3月の雪上運動会は、雪があるからこそ出来る行事でもあります。そんな冬の行事ではありますが、昨年は2005年12月から続いた強い冬型の気圧配置の影響で、近年にない記録的な大雪となり、各地に大きな被害をもたらしました。災害救助法の適用を受け自衛隊も派遣されました。気象庁では平成18年豪雪と名付けました。

地区ではちょうど道祖神祭が行われる頃でもありましたが、残念ながら中止となりました。

富倉地区では人口の減少と高齢化により一時期道祖神祭が無い年もありましたが、有志の方々の力で再開し、これを継続出来る様公民館が中心となって行う事になった経過があります。

道祖神祭では、身の丈程もあるその年の干支が一番高い所に飾られます。市民の皆様にもぜひ一度ご覧頂ければと感じる立派な干支です。

冬でないと出来ない行事がありますが、毎年ほどほどの雪の量であってほしいと思います。

こんな講座をやってみたい!!

平成18年度雪国大学趣味コースの講座を検討するにあたり、こんな講座をやってみたい。この先生に教えていただきたいなど、皆様のご意見を教えてください。

■連絡先
飯山市公民館　TEL 62-3342 FAX62-5940
E-mail:kouminkan@city.iiyama.nagano.jp

いいやまウィークエンド教室「英語で遊ぼう」開催

12月2日(土)から16日(土)までの3回に渡り、講師に飯山市国際交流員であるジョアンさんをお招きし、異文化に触れ、親しみ、楽しんでもらうことをねらいに、いいやまウィークエンド教室「英語で遊ぼう」を開催しました。

参加したのは市内の小学3年生から6年生までの男女合わせた11人。

子どもたちは、英語で書かれたヨーロッパの地図でジョアンさんの故郷であるイギリスの場所やその他の国々を覚えたり、ロンドンバスなどイギリスに関係のある単語を用いて椅子とりゲームしたりと、終始楽しそうに遊んでいました。

皆元気がよく、中には行儀が悪いと注意される場面も頻繁にありましたが、ジョアンさんとの交流は良い出会いになったことと思われます。

飯山雪国大学 文化講演会

「地域が輝く創造性教育」

■日時　3/3(土)　午後2時～

■場所　飯山市公民館　講堂　入場無料

皆様のお越しをお待ちしています。

講師
信州大学 工学部 教授
信州大学 学長補佐
遠藤守信 先生

○講師プロフィール

長野県須坂市生まれ。新炭素体やﾘﾁｳﾑｲｵﾝ電池など先端新素材その電応子用物性とその電応子用が主な研究対象。ﾌﾗﾝｽ国立科学院客員研究員、ﾏｻﾁｭｰｾｯﾂ工科大学招聘研究員、炭素材料学会会長、国際会議議長等を務める。現在ｶｰﾎﾞﾝ科学研究所所長、信州大学学長補佐、大学発ﾍﾞﾝﾁｬｰのMEFS株式会社CTOを兼務。

炭素材料学会人賞、日本人2人目のAmerican Carbon Society, Charles E.Pettinos受賞、信毎賞、石川ｶｰﾎﾞﾝ賞、American Carbon Society最高位であるAmerican Carbon Society Medal、知的ｸﾗｽﾀｰ創成事業において産学官連携活動の推進及び科学技術の振興に取り組み他の模範となる大きな成果を挙げ科学技術創造立国実現に向けた功績のため、文部科学大臣賞を受賞。9月にはBest of Small Tech Lifetime Achievement Award (Small Times).

地区の話題

「田中勇治先生を偲ぶ会」の活動報告について

記念誌発刊委員会代表　上村力

およそ一年をかけ、太田地区を挙げて戦後60年を期に満州開拓と戦争について考える取り組みをして参りました。地区の皆様を始め多くの皆様にお力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。今回その締めくくりとして記念誌発刊委員会代表の上村力さんに出稿いただきました。

太田地区活性化センター庭の片隅に建立されている碑がある。この碑は、旧太田小学校の校長を13年間勤められ、国策により昭和14年下水内郷開拓団長として渡満された田中勇治先生の遺徳を偲ぶ碑であります。

旧太田小学校卒業生が中心となり建立して以来、節目節目に法要を行ってきましたが、もはや法要が出来ない状態の中で、区長会や社協、公民館の方々の協力により、戦後60年を大きな節目として太田地区の皆様へ呼びかけ、「田中勇治先生を偲ぶ会」を立ち上げました。

その取り組みとして、田中勇治先生と満州開拓団犠牲者の法要と、下水内開拓団の記録集「生きとし生ける詩」の記念誌出版、伊那の熊谷さんから開拓団での体験談を語っていただく語り部の会を催そうというもので、7月23日、田中勇治先生のお孫さんにもご出席いただき、大変意義深く盛大に記念行事を行うことができました。戦後生まれで戦争の経験のない年代の方がほとんどという皆さんで組織した実行委員会でありましたが、活動を通じ平和であることの幸せを実感し、かみしめることが出来ました。

太田地区でも満州へ147名が開拓団員として入植しており、そのうち89名が現地で死亡。帰国されたのはわずか31名で、現在4名の方が生存されております。また、高齢化を迎えた中国残留孤児の皆さんが、苦しい生活を強いられていることを思うとき、私たちに何が出来るのか重い責務を感じるものです。

田中先生を偲ぶ会には、飯山市長、井出孫六先生を始め、他方から多くの皆様にご協力をいただき成功裏に所期の目的を達成することができました。本当にありがとうございました。

このことが次世代へ、開拓の犠牲になられた方々の歴史が風化することなく受け継がれますことを念願申し上げまとめといたします。